

学生の声に対する感想や意見をお寄せください。紙面に掲載する場合があります。〒960-8602 福島民報社地域交流部。アクセスは024(531)4117、メールはchiki@fukushima-minpo.co.jp(住所「電話帳を覗いてください」)

佐藤先生 人の心を支援するとき、目の前の相手を理解することが重要なんだけど、なかなか難しい。皆さんは相手を理解するというのを、どう考えるかな。

益田 大学院に入って、「人の話を聞く」ということは、私が思っていたこととは意味が違うなと感じた。今まで「聞いている」と思っていたけど、勉強してみると、それができていなかったんだと痛感した。逆に先輩方に話すことで、受け入れられるという感覚を体験した。

佐藤先生 先輩のどんなところから受け入れられていると感じたのかな。
益田 先輩方は自分が話し終わるまで待っていてくれる。当たり前なことかもしれないけど、待ってもらえることにより、とても大事にされているんだという気持ちになった。

佐藤先生 谷代さんはすでに福祉の仕事に就いていて、支援する立場にあるけど、何か心掛けていることはあるかな。

谷代 ただ「聞く」ではなく、身を入れて「聴く」でありたい。言葉だけではなく、言葉以外のことにも注目

するときいいのかな。例えば座っている姿勢とか、あいさつするときの頭の傾け方とか…。言葉以外のことにも注目していかないと、意味を取り違えてしまうことがある。

佐藤先生 「非言語コミュニケーション」が重要ということだね。姿勢の他にも、表情や語気などがそれに当たる。言葉に非言語メッセージが加わり、

その人なりの意味になっていくということだね。

込山 今回のテーマは私の研究テーマでもあるし、当事者の目線で話したいと思うんだけど、「理解」は辞書通りにはいかない。聞き手の理解が正しいとは限らないし、例えば何かの症状があったとしても、一人一人の思いや感覚は違う。人を理解するためには、

心のケア

身を入れ「聴く」姿勢



大学院心理学研究科
臨床心理学専攻
写真右から益田絵里子さん(1年)、
谷代亨子さん(1年)、佐藤佑貴准教授、
込山加奈さん(2年)、鈴木秋絵さん(2年)

話し手が伝えようとする言葉の意味を理解しようとする姿勢が大切だ。

佐藤先生 目の前にいる人にとっての意味合いを知ろうとすることが重要だね。心理学は人の一般的傾向や共通する要素を見つけていく学問だけれど、相手を理解するという点では、理論や常識をそのまま当てはめていっても、かみ合わない。鈴木さんも研究や実習で相手を理解することについて考えることが多いのでは。

鈴木 実習で相談者の話を聞かせてもらう経験をしたんだけど、勉強した既存の理論を当てはめて理解しようとするが多かった。私の経験の範囲で理解していた。同じ「悲しい」でも、目の前のその人の悲しさと、私が思っている「悲しい」は違うことを痛感させられた。

佐藤先生 「私の視点」で相手を理解しようとしてしまうことは、よく起こりやすい。自分と相手は違う人であり、人の心は分からないという前提で向き合うくらいがちょうどいい。コミュニケーションを重ねることが重要なんだね。

一次回は9月第4週に掲載予定